

第5学年「図工」の学力向上のための方策

児童の実態（成果と課題の分析）

- 成果** ○ 8割の児童が自分の感性や発想に自信をもつことができる。
- 木工技能と描画技能の基礎が身に付いている。
- 課題** ▼ 全ての児童が自分の感性や発想に自信をもてるようにする。
- ▼ 電動糸のこぎりを扱う技能を高め、表現にいかす。

指導の重点（身に付けさせたい力）

- ◇ 自分の感性や発想に自信をもち、表現することができる。
- ◇ 自分と友人の感性や発想の違いを認め、価値づけ合うことができる。
- ◇ 身に付けた技能を働かせ、自分なりの表現を追求することができる。
- ◇ 発想を具現化するために、電動糸のこぎりを適切に扱うことができる。
- ◇ 生活の中にある美を意識することができる。

具体的な改善策

- 毎時間、感性や発想のよさを見つけ、全ての児童に声を掛け価値付けていく。
- ICTを活用し、全体でモニター鑑賞する場面を設け、友人の表現から自分の見方・感じ方を深めることができるようにする。（Formで振り返りを提出）
- 全ての児童の発想が表現できる題材を、開発・改善し提示する。
- 発想に基づき電動糸のこぎりを扱うことができるよう、線を切ることを意識させる題材をスモールステップで提示する。
- ICTを活用し、画像や写真を構成することで生活の中にある美を意識させる。

達成目標

- 対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解するとともに、材料や用具を活用し、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすることができるようにする。
- 造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想をしたり、親しみのある作品などから自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- 主体的に表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養う。